

TDS [見積] Exa 見積表紙の新元号対応について

2019.04.08

TDS [見積] Exaの見積表紙では、「提出日付」と「工事期間」で元号を使用することができます。

これまで「提出日付」は「日付書式」の設定により、「平成EE年MM月DD日」か「YYYY年MM月DD日」を選択することができましたが、プログラムの新元号対応により「元号EE年MM月DD日」か「YYYY年MM月DD日」の選択になりました。

「元号EE年MM月DD日」が選択された場合の「提出日付」は、[データ]「日付」に設定された値により「元号」部分が「平成」または「令和」に置き換わって印刷帳票に出力されます。

ただし過去物件データを開いた場合には、「日付書式」に「平成EE年MM月DD日」が設定されている場合がありますので、「日付」を2019年5月1日以降に変更して出力する場合は、「日付書式」を「元号EE年MM月DD日」に変更して下さい。

なお「元号EE年」での出力の際、「令和1年」は「令和元年」で出力されます。

画面.1

「工事期間」は工事概要データに入力された工期（着工～竣工）により作り出された「元号年月日」と「西暦年月日」のどちらかを選択することができます（「元号」部分は「平成」か「令和」に置き換え）*。

ただし過去物件データを開いて工事概要データの工期を変更した場合には、「工事期間」は過去データでの設定のままとなっていますので、右側の ▼ をクリックするか F3 キーで変更後の工期により作り出された「元号年月日」か「西暦年月日」に変更することができます*。

*見積表紙のユーザカスタマイズ版においてはどちらか一方しか選択できない場合があります。

内訳明細書印刷設定におけるヘッダ・フッタでの制御文字「@HH」は、これまで「平成」における年数を出力していましたが、今回「令和」にも対応するようになりました。ただし2019年は「1」で出力されます。

なお見積表紙・内訳明細書出力帳票等がユーザカスタマイズされている場合は別途対応が必要となりますので弊社にご相談願います。